



パソコン同好会

放送大学山口学習センターサークル

機関誌 No. 70

Nov. 9, '14.

文責 井手明雄

1、第七十七回パソコン同好会

- (1) 開催日： 10月5日(日) 13:00～15:00
- (2) 場所： 放送大学山口学習センター小講義室(山口大学・大学会館内)
- (3) 内容： ① エクセルで、各種の差し込み文書の作成検討。

イ、サークル全員に手渡すカレンダーを作成するのに、各カレンダー記載の共通事項を予め作成し、各人には各人に適した事項が追加されたカレンダーを作成する方法を検討した。

ロ、番号を入力すると、対応するその人の名前と、その人の各種のデータが記載されて、情報が得られる方法を検討した。

- ② その他

2、Q & A

Q、 エクセル画面上で、吹き出しや図形を一時消去するには？



吹き出しで出来た図を一時画面から消します。

- A. ① 図形をアクティブにします。
- ② 「図ツール」タグの「配置」グループの「オブジェクトの選択と配置」をクリックします。
- ③ 画面の右側に「オブジェクトの選択と配置」領域のウィンドウが表示されるので、その中の、例えば「角丸四角吹き出し」ならば、そのアイコンをクリックすると、表示が一時なくなります。
- ④ 再度、表示したい時は、同じアイコンをクリックします。
- ⑤ 「オブジェクトの選択と配置」領域が表示されていない時は、仮に適当な図形を画面上に作成挿入しておいて、出来た図形をアクティブにし、②を試みます。

3、第七十八回パソコン同好会

- (1) 開催日： 11月9日(日) 15:00～17:00
- (2) 場所： 放送大学山口学習センター小講義室(山口大学・大学会館内)
- (3) 内容： ① エクセルで、学习上実用性のある「差し込み文書」作成の検討。
- ② その他 特になし。

4, 差し込み例 1

図3のように国名をカナでセルに入力すると、図2のように国名が漢字で表示されるようにします。

(1) 図1のような、シート「国名データ」にカナで書かれた国名とそれを漢字としてあらわしていた漢字の一覧を作成しておきます。

(2) セル A2:H9 を選択し、名前ボックスに「漢字表記」と書きます。続いて、A2:I9 を、「漢字表記 2」、B2:I9 を、「漢字表記 3」、・・・H2:I9 を「漢字表記 9」とそれぞれ名前を付けておきます。

(3) どのシートでも良いですが、ここでは、シート「漢字表記」に漢字国名すべてが表示されるようにします(図3)。セル、C7 に「=CONCATENATE(C3,"",D3,"",E3,"",F3,"",G3,"",H3)」セル B3 に「=\$B\$7」、C3 に

「=IF(VLOOKUP(\$B\$3, 漢字表記 ,C2,FALSE)=0,"",VLOOKUP(\$B\$3, 漢字表記,C2,FALSE))」とし、そのフィルハンドルをセル H3 までドラッグします。

(4) セル B7 に「ドイツ」とキーインすれば、図2のように表示されます。

図1 国名の原データ

図2 国名を入力すると漢字で国名が表示さ

5, 差し込み例 2

シート「ブナ分類表」に、図4のようにブナ科の植物の特徴をある「1」、なし「0」でしめた表を作成しておきました。シート「植物検索」にセル B6 に植物名を入力すると(図5)、図6のように特徴が二進数で表記されます。逆に、特徴をセル B2 に二進数で入力するとセル C2 に植物名が表示されます。

(1) 予めブナ科の植物の特徴を図4のように作成しておきます。

セル範囲 G3:H9 を指定し、名前ボックスに「植物」と記入します。続いて、セル範囲

図4 ブナ科植物の種類識別基本データ表

B13:H19 を「植物特徴」と名前を付けます。

(2) シート「植物検索」のセル B6 に「=VLOOKUP(\$B\$6,植物特徴,2,FALSE)」、セル、C3 に予め、「=VLOOKUP(B3,植物,2,FALSE)」とキーインしておきます (図 5)。

セル B3 に「01010」と入力すると、結果は、図 6 のようになります。

植物名	葉柄あり	鋸歯あり	葉脈明	葉け平	葉け厚	二進表示
#N/A						

図 5 ブナ科植物の名前を入力する

植物名	葉柄あり	鋸歯あり	葉脈明	葉け平	葉け厚	二進表示
ミズナラ	0	1	0	1		01010

図 6 ブナ科植物の特徴から植物名を知る

6. 差し込み例 3

和暦年号は西暦と簡単に比較できないので、表を作って直ぐに表示できるようにすると便利が良いです。そこで、シート「年号」に換算表を作っておき、シート「西暦を知る」で直ぐに検索しました。

明治45年と大正元年が重なっても西暦は同じです。十干・十二支は重ならないので、これを頼りにすると、年号の比較に間違いが少ないです。

(1) シート「年号」にセル A2 に年号「文政1年」、B2 に「1818」、C2 に十干の「つちのえ」の「戊」、D2 に十二支のとらの「寅」としました。十二支も最初のセルのフィルハンドルを最後のセルの行、203 までドラッグします。年号の初めだけキーインし、必要なだけフィルハンドルをドラッグしました。

(2) シート「西暦を知る」のセル B3 は課題の年号を入れるセルです。

セル C3 に、「=VLOOKUP(\$B\$3,年号!\$A\$2:\$D\$203,2,FALSE)」

セル D3 に「=VLOOKUP(\$B\$3,年号!\$A\$2:\$D\$203,3,FALSE)」

セル E3 に「=VLOOKUP(\$B\$3,年号!\$A\$2:\$D\$203,4,FALSE)」を入力しておきます。

セル B3 に、「明治1年」と書き込むと、「1868」、つちのえ・たつの「戊」「辰」が表示されます。

	A	B	C	D
1				
2	年号	西暦	干	支
3	文政1年	1818	戊	寅
4	文政2年	1819	己	卯
5	文政3年	1820	庚	辰
6	文政4年	1821	辛	巳
7	文政5年	1822	壬	午
8	文政6年	1823	癸	未
9	文政7年	1824	甲	申
10	文政8年	1825	乙	酉
11	文政9年	1826	丙	戌
12	文政10年	1827	丁	亥
13	文政11年	1828	戊	子
14	文政12年	1829	己	丑
15	天保1年	1830	庚	寅
16	天保2年	1831	辛	卯
17	天保3年	1832	壬	辰
18	天保4年	1833	癸	巳
19	天保5年	1834	甲	午

図 7 年号換算表

ここで、ヒントですが、十干・十二支及び年号は、フィルハンドルを連続データとして得られます。

数字は、フィルハンドルをドラッグした後、連続であることを指示すればよろしいです。

	A	B	C	D	E	F
1						
2		年号	西暦	十干	十二支	
3		明治1年	1868	戊	辰	
4						

図 8 年号を入力してデータを得

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1									
2		2014/11/1	土				2014/11/1	大歳祭りの準備	
3		2014/11/2	日				2014/11/2	大歳祭り	
4		2014/11/3	月				2014/11/3	水泳トレーニング	
5		2014/11/4	火				2014/11/4	種彦整形外科	
6		2014/11/5	水				2014/11/9	センター同好会	
7		2014/11/6	木				2014/11/10	大歳センター史談会	
8		2014/11/7	金				2014/11/14	水泳トレーニング	
9		2014/11/8	土				2014/11/17	大歳センター史談会	
10		2014/11/9	日				2014/11/21	水泳トレーニング	
11		2014/11/10	月				2014/11/30	同窓会	
12		2014/11/11	火						
13		2014/11/12	水						
14		2014/11/13	木						
15		2014/11/14	金						



図9 右の表の予定表を左のカレンダーに書き込む

7. 差し込み例 4

図9の右側に予定表のリスト（このリストはいずこにあってもよいです）として作成して置いたものを、カレンダーに予定表に埋める。結果は、図10のようになります。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1									
2		2014/11/1	土	大歳祭りの準備			2014/11/1	大歳祭りの準備	
3		2014/11/2	日	大歳祭り			2014/11/2	大歳祭り	
4		2014/11/3	月	水泳トレーニング			2014/11/3	水泳トレーニング	
5		2014/11/4	火	種彦整形外科			2014/11/4	種彦整形外科	
6		2014/11/5	水				2014/11/9	センター同好会	
7		2014/11/6	木				2014/11/10	大歳センター史談会	
8		2014/11/7	金				2014/11/14	水泳トレーニング	
9		2014/11/8	土				2014/11/17	大歳センター史談会	
10		2014/11/9	日	センター同好会			2014/11/21	水泳トレーニング	
11		2014/11/10	月	大歳センター史談会			2014/11/30	同窓会	
12		2014/11/11	火						
13		2014/11/12	水						
14		2014/11/13	木						
15		2014/11/14	金	水泳トレーニング					

図10 右の予定表が左のカレンダーに書き込まれた結果

- (1) セル D2 に、「=TEXT(VLOOKUP(B2,\$G\$2:\$H\$11,2,FALSE),"&なし)」とし、D2 のフィルハンドルを D31 までドラッグします。
- (2) セル B2 から D31 まで範囲を指定し、「ホーム」タブの「スタイル」グループの「条件付書式」をクリックして、好みのスタイルにします。

8、関数

(1) TEXT 関数

数値を文字列に変換し、特別な書式文字列を使用して、表示書式を指定できるようにします。

使用形式「=TEXT(変換したい数値,表示形式)」

表示形式は、沢山あり、複雑ですから、「関数の挿入」のアイコンをクリックし、現れたウィンドウで TEXT 関数を指定し、「この関数のヘルプ」のボタンを押して形式を知ってください。

例

「=TEXT(G5,"ggge年m月d日)」とすると「平成26年11月9日」

「="今日は"&TEXT(G5,"ggge年m月d日")&"です。"」とすると

「今日は平成26年11月9日です」となります

G5には「=TODAY()」となっていますが G5の代わりに「TODAY()」としても良いです。

「=TEXT(G5,"aaaa")」とすると「日曜日」となります。

(2) CONCATENATE 関数

加えたい文字列をコンマで区切ります。

使用形式「=CONCATENATE(文字列1,文字列2,・・・)」

例、セルの文字を足し算します。セル A1に「井手」、B1「明雄」とあって、D1で、「=CONCATENATE(A1,B1)」とすると、「井手明雄」と表示されます。文字列と文字列の間に好みの「”文字”」を挿入することもできます。

D1で、「=CONCATENATE(“私は”,A1,””,B1,”です。”)」とすると、「私は井手 明です。」と表示されます。

(3) IF 関数

条件を指定し、その条件に合った場合の処理、合わない時の処理を指定します。

使用形式「=IF(条件式,条件に合った場合の処理、合わない場合の処理)」

A1に「井手」、B1「明雄」とあって、D2に「=IF(A1="井手",A1,"")」とすると、「井手」と表示され、A1を「井」にすると、D2は空白になります。

(4) VLOOKUP 関数

指定した文字や数値を、基準表を参照して探し出し、表の中の指定した項を取り出します。

使用形式「=VLOOKUP(探すもの,それを探す場所,様式)」

様式は「TRUE」は曖昧、「FALSE」正確を意味します。

例 「11月例会資料」の「国名」を立ち上げ、シート「予定表作成」を選択し、セル G15に「=VLOOKUP(G6,\$G\$2:\$H\$11,2,FALSE)」とすると、「センター同好会」と表示されます。